時事新報定價
時事新報へ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓
○一箇年前金六圓
○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送達スルモノニ限リ右定價ノ外一箇月二十六錢ノ送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

五號活字ニテ一行廿四字詰	一行ニ付一日限	一行ニ付二日以上六日迄	一行ニ付七日以上十五日迄	一行ニ付十六日以上
百一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
百十一行以上三十一行以上	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢	五錢

時事新報

國會奇談

筑陽生寄稿

二十三年ハ國會ヲ開キ數百名ノ代議士ヲ召集シテ國家重要ノ諸件ヲ諮問スルハ日本開闢以來初テノ珍事ニシテ全國各所ヨリ思ヒ〳〵ノ議員ヲ出シ一堂ニ會シテ討論セシむる次第ナレバ先ヅ其大體ハ政府方民間方ノ二ツヨ分レテ政府方ニモ敵アルベシ民間方ニモ裏切起リテ議場ハ五分六裂ノ姿ヲ呈シ極メテ騒然タルヨトおらん或ハ最初ヨリ和氣藹々ニ滿チテ談笑ノ間ニ國事ヲ審議スルヲ得バ甚ダ妙おりと雖モ人ハ元來鬼神ニ非ず殊ニ二千年來例なきノ新國會ヲ開テ即日ヨリ至善ノ域ニ達せんとするハ人力ノ許さざる所ニシテ初年二年ヨリ十年二十年ト經過シ他年一日ト圓滑なる政黨内閣ノ更迭ヲ見るモ當分ハ先づ其事なしとして遠く實際ニ外れざるべし初テ馬ニ騎ル者ハ其奇ニ乘じて東西ニ馳騁し却テ馬ヲシテ仆ふれしむるなきヲ期す可らず國會ノ開設ハ之ニ異なれども珍奇ノ一事ハ他ニ比例なき所ニシテ二十三年ニハ國ヲ擧げて政談ノ熱ニ狂し國會議院ハ冷眼虚心ニシテ事ノ實際ニ着目すべし漫ニ漫然たる胸臆ヲ描テ他日ニ落膽するガ如きハ我輩ノ取らざる所なり今西洋國會ノ模樣ニ關シテ二三ノ奇談あれば之ヲ左ニ記シテ讀者ノ參考ニ供せんとす

昔濠西王國ノ憲法ニ依れば内閣大臣ハ隨時ニ議場ニ出デ〻其所見ヲ述べ又反對ノ說ヲ駁シテ原案擁護ノ權利あれども國會議員ト異なる所ハ人民ノ撰擧ニ依テ出身したるニ非ずシテ上ニ高乘ノ天子ヲ戴き勅命ヲ奉じて議場ニ在るノ一事なり故ニ其位地權力ハ天子ヲ除くノ外一切獨尊ならざる可らずシテ議員ヲ支配し議場ノ全體ヲ監督するハ議長ノ特權おりと雖モ内閣大臣ハその支配ヲ受くる理由おしとす議長ハ各議員ノ發言ヲ許可し又危險おりと認る時ハ之れヲ禁じて尚ハ時ニ依れば被言者ヲ場外ニ退出せしむノ職權あること大切なりと雖モ内閣大臣ハ其職分ノ外ニ立チ隨意ニ議場ニ出入し又議案ニ發論辨明するノ特權ヲ失すると異ニ其獨立ノ地位ヲ奪はれ未議員ト進退ヲ一ニするハ不都合ノ少カラズシテ常ニ其權力ノ維持ヲ勝め辨論到ラざる所おかりしも議員ハ勝ラずして縱ヘ大臣なりとハ言ヘ議場ニ在るノ間ハ議長ノ配下たらざる可らず無論高位ノ者ヲ放て衆議員ヲ罵るノ大臣あるも議長ニ發言ヲ停止する權利おければ國會ハ唯議謗ノ府たるに過ぎず大臣ノ隨意發言ハ斷じて許す可らずと主張し雙方ノ不和爭論ハ廿年來日ニ倍々募りて今ニ際限なき問題おりと云ふ始め此問題ノ發しさるハ千八百六十三年五月十一日ノ事ニシテ國會ニテ議員シベール氏ノ發言中ニ陸軍大臣ローン氏ヲ駁しさる一條ハ事實ヲ失しさりとテローン氏ハ烈火ノ如くニ激怒シ

シベール氏、足下ハ根もなき事ヲ構造シテ人ヲ誣ふるも甚だし無禮と云ふも尚ハ餘りあるべし

と言答ヘ議謗特ニ激烈なればドックムドルフス氏ハ議長席ニテ鈴ヲ鳴らしローン氏ノ發言ヲ停止しおがら聲ヲ荒らげ

議長ノ職權ニテ拙者ヨリ御話致事あり大臣ニハ暫し發言をゆん止め候ラヘ

陸軍大臣　拙者ガ今ノ過言ハ平ニ御容赦ヲ願ふ外なし、シタカ議員諸君ハ陸軍大臣たる拙者ノ演說ヲ聽くノ責任おかる可らず拙者ハ又陸軍大臣ノ資格ヲ以テ爰ニ演說するノ權利ヲ失ふ可らず（此際議長ハ頻ニ鈴ヲ鳴らしテローン氏ノ發言ヲ止めんとしたれども氏ハ聽ふずして尚ハ語ヲ繼き）吾人ハ憲法ノ許たる權利ヲ楯ニシテ發言する者なり議長足下ニ如何ニ鈴ヲ鳴らさるゝも拙者ハ斷然、、、、、（議長ハ又〻鈴ヲ鳴らし議長ノ命なり〳〵と再三再四大聲ニ呼ばはり滿場ノウ、ヒヤノ聲騷しく一時ハ場中湧くが如し）

議長　イヤ、ナニ、縱ヘ大臣諸君とハ云ヘ議長ニ其發論ヲ制するノ權利あるべきハ當然ニシテ發論ヲ停められたる大臣ハ議長ノ命令ニ從ふ責任なる可らず（此時右黨よりハ否々ノ聲起り左黨よりハ然り〳〵ノ叫び頻なり）拙者ガ鈴ヲ鳴らしたるハ足下ニ言論ノ中止ヲ命じたる合圖なりと思されよ、夫れニテも尚ハ足下ハ發言ヲ停め給ハぬ、ヨレ、然らハ拙者ハ帽子ヲ冠り一應諸君ニ退散ヲ命じて議場ノ靜謐ヲ圖るものと御承知あるべし

陸軍大臣　議長足下ガ帽子ヲお冠りニ成るハ御勝手ゆゑ拙者ハ初テ立入りて彼是申すニ非ざれども是非職權ノ上ニ於テ拙者ヨリ陳述致したき事あれば暫く御聽問下さるべし（此時兩黨よりノウ、ヒヤノ聲喧しく發して大臣ノ演說開之ざる程なり）紳士諸君ニ拙者ハ三百五十人ノ發言權（當時普濠西議員代議士ノ總數）ハ拙者一人ノ發言權よりも其聲ノ高きヲ知れり併し拙者ハ憲法上ノ權利ニ訴へ三百五十人ノ諸君ニ我主義政策ヲ告げ得るノ地位ニ立つガ故ニ議長足下ガ一人ノ權ヲ以テ擅ニ拙者ノ言論ヲ禁止するハ以テ理ニ於テ明白なるべし拙者ハ憲法上ノ權利ヲ犯さざる間ハ隨意隨時ニ演說するハ勝手ニシて何人と雖モ拙者ノ言論權ヲ停止する者ある可らず（場中ノ喧擾此ニ至りて最も甚だし）　（未完）

官報

○生徒姿勢標準　第五高等中學校ニ於テハ生徒姿勢ノ標準ヲ左ノ通定めたり（文部省）

第五高等中學校生徒姿勢標準

一本校生徒ハ慨ね左ノ標準ニ則り常ニ其姿勢ヲ正くすることヲ勉むへし

但し學科ノ都合ニより特ニ教師ヨリ命じたる姿勢ハ此限ニあらず

（第一項著席ノ姿勢）一直坐若くハ體ヲ少しく前後ニ傾くる時と雖後頭結節ヲ高骨とハ一直線ヲ爲す」一眼一膝ノ下部ヲ前ニ出し膝下ニ氣力ヲ充ふす」一眼ハ必要ノ所ヲ直視す」一兩手ノ掌ヲ下ニ向け股上ニ置く」一脊骨ヲ伸ばし肩骨ヲ後ニ開く

（第二項著席持書ノ姿勢）一兩前臂ノ半ヲ机上ニ載せ書籍ヲ兩手ニテ保ち其下部ヲ机面ニ托す但し場合ニよりて片手ハ書籍ヲ保ち片手ハ股上ニ置くか又ハ片手ニて書籍ヲ保ち片手ニて筆記するニ至るハ固より妨なし」一書籍ノ背面と机ノ面とハ三十度乃至四十度ノ角度ヲ爲す」一體ヲ少しく前方ニ傾け書籍ノ面と眼との距離ヲ凡そ一尺三寸内外とす但し肩ヲ前ニ傾くへらす」一右ノ外ハ總テ第一項ニ同シ

（第三項起立持書ノ姿勢）一兩手ニテ書籍ノ程好き部分ヲ保ち其下端ヲ凡ろ乳ノ邊と水平ニす」一書籍ノ背面と机ノ面とハ凡そ六十度ノ角度ヲ爲す」一書籍ノ面と眼との距離ハ凡そ一尺三寸内外とす但光線等ノ都合ニより少しく書籍ヲ左方又ハ右方ニ寄するも可なり

（第四項筆記ノ姿勢）但し作文圖畫書取數學ノ運算等ハ總テ此項ニ屬す」一左手ヲ机上ニ出し紙ヲ押ゆ但し事宜ニより押ゆさるも妨けなし」一右ノ前臂ハ輕く机上ニ托し若くハ全く机上ニ托せさるゝ又ハ右ノ手頸ヲ左手ノ甲ニ托するも妨けなし」一體ヲ少しく前方ニ傾け眼と紙面との距離ヲ凡そ一尺二寸内外とす」一右ノ外ハ總テ第一項ニ同シ

（第五項歩行ノ姿勢）一凡そ校ノ内外ヲ問ハず歩行ノ節ハ體操科ニ於ける行進ノ姿勢ヲなす

○地方政務改良案議事　地方政務改良案ノ議事ニ關し去る九月十二日附ヲ以テ在倫敦本邦公使館ヨリ左ノ如く報告ありたり（外務省）

本年三月十九日地方政務大臣リッチー氏ハ英威地方政務改良案ヲ議場ニ提出し二時半間ノ演說ヲ爲し大ニ兩黨ノ贊成ヲ得たり

本案ノ提出ヲ要する所以ハ現行法ノ錯雜甚しきガタめ恰も渾沌とシテ暗夜ノ如くおるヲ以テ今や之ガ改正ヲ行ふハ政治社會一般ノ希望なるも如何せん右ハ至大ノ問題ニシテ殊ニ國民個々直接ノ關係ヲ有し其良否ハ大ニ公衆休戚ノ繫る所おるヲ以テ其全體ノ改革論ハ更ニ成立つヨトヲ得ざりしものおるガ兩三年前グラッドストーン氏其援旗ヲ受閣自治黨ニ擧げし以來反對ノ諸雄ハ其受蘭ヲ獨立權ノ與ふべからざるヲ主張すると同時ニ說ヲ爲シテ曰く愛ハ蘇と離るべからず蘇、愛ハ英、威と合するヲ要す英威蘇愛ヲ合して富强全きヲ得べきものおるヲ箇々ノ政權ヲ分割するハ愛國者たる者ノ爲すべからざる所おり然れども四國共ニ利ヲ享くべき自由權利ノ擴張ハ是我輩ノ希望する所おりと公言し以テ愛國自治政策ニ對抗ノ陣營ヲ張りし者あり是今般ノ議案ノ基因する所おり左れど本件ハ至難ノ問題ニシテ事項廣大なるガ故ニ内閣員ノ共同充分ノ一致ヲ得ざれば行はるべきヨトヨあらず殊ニ聯合自由黨ノ勢援ヲ要し其ノ旗色ヲ觀察するヲ必要おりとす而して自治政權ヲ地方ニ增與するヨトハ聯合自由黨ノ目的とする所ニシテ現政府若し之ヲ冒瀆ヲ異ふすれば兩黨聯合ノ緣故ヲ減殺すべきノ情おるニ至りたれば現政府ハ於テ斷然今回ノ擧ありたるなり

今回ノ地方自治權增與ヲ要する所以ハ既ニ前記せし如し而して其從來ノ組織實ニ錯雜ヲ極め政權課稅并ニ行政區域甚しく擾亂し假令之ヲ修正補綴するも更ニ益する所なきものおるガ故ニ其組織ヲ全く一變し後來改良ノ方法ヲ施すニ適する基礎ヲ爲すヨトヽなれり

新案ノ大意ハ國内各州ニ中央政廳ヲ置き以テ其州全體ヲ統轄せしめんとするものにシテ日本又ハ佛國等ノ地方政制ニ近似す故ニ日本ヨリ之ヲ觀察すれば更ニ新奇ノ事おく却テ其今日ニ至るまで此擧なかりしヲ怪訝するノみ即ち其方法ハ各州ニ中央廳ヲ置ケ之ニ州内分劃ノ諸區ヨリ參事員一名づゝヲ撰出し該參事員ノ長ヲ以テ行政並ニ同州立法ノ主坐と爲し以テ事ヲ接行せしめ從來中央議院ニ委顧せし州ノ立法ヲ自ら議決し中央政府ヨリ請求せし行政ヲ自ら施行し中央政府ヨリノ補助金ヲ廢止し之ニ代ふるニ多分ノ課稅金並ニ收入ヲ增加するノ權ヲ以テし自治ノ功ヲ全うらしめんとするものなり

各州ノ參事員ノ數ハ人口ニ由り其州ノ大小ニ係ず至當と思量するノ數ヲ地方政廳ニテ指定し以テ事

本年七月十五日磐梯山麓火事變ニ付テハ慈愛ナル四方有志ノ諸君ヨリ意外ノ金圓ヲ義捐セラレメチ以テ死者ハ永ク記ヲ愛ス少傷者ハ唐瘡ヲ癒シ疲害困厄ノ遺族亦廣告

抽者今日歸京セリ國産桑ノ雜ニ付御疑之友有之由農業雜誌等ニモ相見ヘ甚不審ニ付御疑念有之候方ハ無御遠慮

三田育種場主　竹中卓郎

生等今般居住候間此段辱知ノ諸君ニ謹告ス

三十間堀二丁目一番地　轉

明治十一年　月　日　東京　宣三

來ル十二月十三日地所ヲ委任ス